

平成28年度第3回白井市地域福祉計画策定等委員会会議録（概要）

1. 開催日時 平成28年11月24日（木） 午後2時から4時まで
2. 開催場所 白井市保健福祉センター 3階 団体活動室
3. 出席者 阿部委員、岩本委員、石田委員、大西委員、白石委員、柴委員、
田代委員、高尾委員、竹内委員、時田委員、中村委員、松本委員、
村木委員、山口委員
4. 欠席者 森谷委員
5. 事務局 岡本課長、金井主査
コンサルタント 2名（黒崎、田中）
6. 傍聴者 1人
7. 議題 ① 計画の素案について（公開）
8. 議事

事務局 本日の出席委員は14名であり、委員の半数以上が出席しているため、本日の会議は成立する。

本日の議題については、白井市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき公開とし、内容については録音しているのご了解願う。

それでは、議事の進行については委員長にお願いする。

委員長 次第に従い、議題の1. 計画の素案についてを議題とする。
事務局からの説明をお願いする。

（1）「I 計画の概要」について

（事務局より資料説明）

委員 4頁に「少子高齢化」とあるが、少子化と高齢化は別ものだと思う。「少子・高齢化」とした方が良いのではないかな。

委員 10年後には現役世代2人で1人の高齢者を支えるということで、財政的にも厳しくなっていくが、福祉の予算を賄えるのか財政面での資料は掲載されていない。将来的に福祉の予算もカットされていくのではないかとという中で、それにどのように対処すべきかを考えないと、計画はできたが予算の裏付けなく、実施できなくなるという心配もあるのではないかな。財政的な裏付けについても記載した方が良いのではないかな。

委員 財政的な課題については第5次総合計画に記述されている。

事務局 総合計画の中には記載されているが、地域福祉計画では、地域でどのような取り組みができるかということが中心となるということもあり、本計画では財政面について記述は特に入れていない。

委員 記述はあった方が良く思う。

事務局 第5次総合計画では、個別計画でそれぞれの分野で必要な事業を考えていくことになっており、総合計画の実施計画を策定する中でそれらの事業の財政面

については、財政セクションと協議しながら進めている。計画書自体に財政面の記述はないが、そのあたりはそうしたしくみの中で対応させていただいている。

委員 法的な根拠について入れなくて良いのか。社会福祉法での位置づけ等を記述しておいた方が良い。

今出された意見を踏まえて修正をしていただきたい。

(2) 「Ⅱ めざす姿」について

(事務局より資料説明)

委員 ここについては問題ないと思うがどうか。

一同 良いと思う。

委員長 それではこの箇所は修正なしということにしたい。

(3) 「Ⅲ 戦略プラン」について

(事務局より資料説明)

委員 3つの戦略プランのそれぞれに書かれているリード文と、13頁の「ふれあい」、「育みあい」、「助け合い」の説明文が違う内容になっている。言っている内容は同じなのに文言が違うため、読み手が混乱する。

事務局 13頁では総合計画の基本理念を受けて、基本的な考え方を示しており、16・17頁は地域福祉の進め方としての記述になっている。

委員 そうであれば13頁に総合計画の基本理念からきていることを記述した方がよい。

事務局 意見を踏まえて13頁、もしくは16・17頁の記述を変更したい。

委員長 文言の修正をお願いしたい。

委員 Ⅲ-1-2は「市役所周辺」と限定せずに市内すべてを対象とした表現にした方がよい。

事務局 意見を受けて修正したい。

(4) 「Ⅳ 基本方針」について

(事務局より資料説明)

委員長 内容的には大体網羅されていると思うがどうか。

委員 19頁で「一人ひとり」と「一人一人」という表現が混在している。

委員 「一人ひとり」で統一したらどうか。

委員 20頁で記述されている「地域と各種事業者などとのネットワーク化」はどこまでのものを想定しているのか。

事務局 今後、地域包括支援センターが増えていくなかで、地域包括支援センターが地域と地域の事業者との連携をつくっていく形になるとは考えているが、連携の中心となる高齢者福祉課がどこまでのことを想定しているのかは確認していない。

委員 9年間の計画の中で、市としてどこまでのことをやろうとしているのかを確認

認したい。

委員 「ネットワーク化」ではなく「連携」にしたらどうか。

事務局 担当課に確認し、「連携」に修正するなど対応したい。

委員 19頁の自死問題、ストレスに適切に対応すれば防げるような問題ではない。市の計画で軽々しく書くべきものではないのではないか。

委員 その通りなので文言の修正をお願いしたい。22頁の(5)子どもの安全確保に「バリアフリーを推進します」という表現があるが、「バリアフリー化」とした方が良い。

事務局 「バリアフリー化」に修正する。

(5) 「V 地域福祉に関する施策」について

(事務局より資料説明)

委員 コーディネーターは必要だが、具体的にどのようにしていくのが重要となる。

委員 コーディネーターについては、社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画との連携が必要となる。

委員 社会福祉協議会の地域福祉活動計画については、現在たたき台をつくり、各委員からの意見を待っている状態となっており、順調に進んでいる。

委員 災害時の対策、非常に難しい。市民安全課が中心になってやるべき問題だと思うが、関係課が集まって取り組まないといけない。個人情報の問題もかかわってくるので絵に描いたもちにならないように。防災訓練などで実際にやってみないとわからないことも多い。そのあたりを市にはお願いしたい。

委員 「(2)②福祉・保健・医療と生活関連分野との連携強化」に、「市中心部における新たな病院・福祉サービス施設の整備を契機として」という表現があるが、市全域を対象とした記述とすべきではないか。

委員 そのように修正してほしい。

委員 「NPO」と「NPO法人」という表現が混在しているので統一した方がよい。

委員 統一してほしい。

事務局 統一する。

(6) 「VI 実現に向けて」について

(事務局より資料説明)

委員 「実現に向けて」のようなことをやる時に、小学校区内に場所がなくて困っている。小学校区ごとにそうした場がどれくらいあるのかを見定めないといけない。小学校区の連携といっても空き教室がない学校もある。そのあたりも含めて総合的に考えていただきたい。

委員 場所の問題だけでなく、町内会、自治会同士の協力や活動についてはどうか。

委員 それは少しずつやれて来ていると思う。問題は地域包括支援センターが見守

りネットワークをつくり、活動し出したが、そこに参加する側の体制が不十分だった。今後、まちづくり協議会をつくっていく中で、コーディネーターが中心になって引っ張っていくことが必要なのだと思う。

委員 担い手についての発掘・育成についてはどうか。

委員 それにはメニューをたくさん用意することが重要だ。たくさんあればどこかに関心を持てる可能性が出てくる。実際にやってみることが大事なのではないかと思う。

委員 担い手の高齢化が進んでいるが。

委員 まずは自助が基本になる。自助で出来ないということであれば共助で助け合うということなので、まずは自分で出来ることは自分でしていくことが重要だ。

委員 「人にやさしい産業」とは何を指しているのか。

事務局 障害者の方を雇用している事業所や、子育て支援などに関しては千葉県で「チーパス事業」というものを推進しているが、そうしたものを実施している事業所などを想定している。

委員 わかりにくいので表現を変えた方が良いかもしれない。

委員 各産業がそれぞれ考えていかないといけない。後継者が後を継がない農業では他人の参入は期待できない。工業団地には保育園もなく、預ける場がなければ働けない。産業施策としてはそういうことを考えていかないといけない。

委員 表現を見直してほしい。

(7) 「資料編」について

(事務局より資料説明)

※資料編に関する意見なし

委員 本日の意見を踏まえて修正した上で進めていただきたい。

3 その他

(1) 今後の策定スケジュールについて

事務局 次回委員会については、1月下旬を想定しており、改めて日程調整をしたい。

使用した資料

①資料1 「骨子案」から「素案」への修正に関して

②資料2 白井市地域福祉計画（しろい支え愛プラン）素案